

＜食料・農業・農村政策審議会畜産部会地方公聴会・現地視察の概要（北海道）＞  
平成21年11月9日（月）～10日（火）

【公聴会（10日）】

委員5名、生産者、関係機関・団体等82名が参加。



○ 公聴会での主な意見（抜粋）

- ・ 後継者がいる農家では、規模拡大等を図るために投資しようとするが、JAからはバランスシートをチェックされ、融資は無理と言われる。
- ・ 酪農経営の維持や継承については、従業員を雇用して、年をとっても経営が継続できるようにするとか、他人であっても跡継ぎにできるようなシステムや年金、税制の優遇措置があればいい。
- ・ 全国的に雇用不足が叫ばれているが、酪農業界には人が来ない。
- ・ 労働力としての外国人研修生は重要。現行では最大3年だが、これを延長するなどの措置が必要。
- ・ 生産者の減少は、地域のコミュニティーが崩壊するという。農家戸数をどうするのかといった将来ビジョンを示してほしい。
- ・ 経済的ではなく、人の問題で経営継続できない状況。男一人でも経営ができるように、TMR、コントラクター、たい肥や生産資材等の輸送業務、更には除雪等も含めたサポート体制が不可欠。
- ・ 法人化してスケールメリットが出るようにすることが重要。
- ・ TMRセンターやコントラクターについて、体力のない組織もあり、機械等の単純更新についても補助の対象にしていただきたい。また、コントラクターの法人化に向け、支援する必要。
- ・ 今後は、コントラクターが、収穫だけでなく、草地の維持・管理まで行っていくべき。
- ・ 自給飼料については、デントコーン生産の推進や加工食品業者からの残さ利用等も含めた連携が必要。残さの輸送コストへの支援も必要。
- ・ 草地更新事業の書類手続きの煩雑さを緩和していただければ、その分もっと現場に入って指導ができる。
- ・ 生乳の用途別乳価はよくない。用途に関わらず価格を一本化して欲しい。
- ・ 戸別所得補償について、全国一律の生産費では、本州の酪農が継続できなくなるのではないか。
- ・ 現場における課題は様々であり、地域や農家によっても状況が異なる点に留意する必要。単純に戸別所得補償だけで解決できるものではなく、それにプラスする形で、環境対策や中山間直接支払のような様々な対策が必要。そうした様々な直接支払いをメニュー化して農家が選択できるようにすべき。
- ・ 戸別所得補償については、災害による被害も視野に入れた事業設計を望む。

【現地視察（9～10日）】

○（有）西上加納農場（河東郡士幌町）

畑作経営から1971年に牛舎を建設し、畜産を開始。現在では、肉用牛（ホルスタイン去勢が中心）約6,700頭、乳用牛約900頭（うち搾乳牛約600頭）を飼養する大規模複合経営を展開。

肉牛部門は、従業員7名、研修生1名、酪農部門は、従業員5名、研修生他4名、畑作部門は、従業員6名、研修生1名で構成。

肉牛部門は、ホルスタイン去勢、F1を、哺育から肥育まで一貫生産（一部市場導入）し、年間約3,000頭出荷。

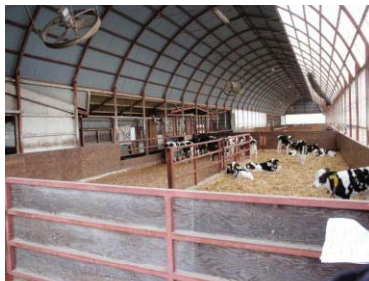
酪農部門は、平成17年から開始。農協から施設のリースを受けて使用。フリーバーンによる飼養管理により事故率が低く、万歩計による繁殖管理に取り組む。搾乳は、ロータリーパーラーにより、1日3回。

畑作部門は、小麦、甜菜、馬鈴薯、小豆、にんじんの他、デントコーン(86ha)、牧草(55ha)、えん麦(22ha)を316haで生産する他、小麦の後作でえん麦(55ha)を作付けるとともに、地区内でデントコーン(141ha)の生産を委託。

畑作と畜産の連携による循環型農業を実践。敷料は、ノコクズのほか、戻し堆肥も利用し、天日干しして再利用することでコストダウンを図っている。



肉牛舎の全景



哺育舎（ほ乳ロボット）



肥育牛舎①



肥育牛舎②



堆肥舎



敷料庫



発酵槽



搾乳舎



乳牛舎全景



フリーバーン



戻し堆肥も利用



ロータリーパーラー

○ (有)十勝しんむら牧場 (河東郡上士幌町)

昭和8年に開墾し、現在、4代目。平成12年に法人化。放牧による酪農経営と牛乳加工品を販売。「消費者のための循環型酪農」の経営理念のもと、土づくり、草づくり、牛づくりを実践し、草づくりコンクール北海道知事賞のほか、数々の賞を受賞。労働力は、牧場4人。工場・直売所4人。

飼養規模は、経産牛85頭。80haの草地に、4月下旬～11月下旬は昼夜放牧を実施。1頭当たり乳量は7,500kg程度。放牧により牛の病気がほとんどなくなり、獣医の診療回数が減少し、7～8産する牛もいる。

生産物の価格決定権を自ら握ろうと、自ら生産した生乳を加工・販売。敷地内に、65℃30分殺菌、ノンホモの放牧牛乳やミルクジャムをはじめとする牛乳加工品の販売と飲食もできるショールーム「クリームテラス」を開店。特にミルクジャムは、4～12月に訪れる6,000人の来場者の他、百貨店やネット販売などを通じ、年間17万個売れるヒット商品。店内の設計や商品パッケージ、牧場を紹介したパンフレットについては、アパレルメーカーや農業コンサルタントなど紹介された人のつながりにより作成。

生乳生産量650トンのうち、150トンを自ら加工・販売しているが、売上高は加工・販売部門が生乳出荷によるものの3倍。



牧場入口



牧場全景



クリームテラス入口看板



クリームテラス



クリームテラスの店内



グッズの販売



加工品の販売①



加工品の販売②

○ J A新得町TMRセンター（上川郡新得町）

新得町の酪農家のゆとり創出を目的に、平成16年度畜産総合対策事業により整備（事業費433,503千円（うち補助金190,000千円））し、17年8月に完成。

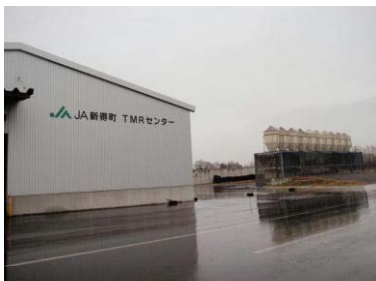
J A新得町が運営主体となり、酪農家14戸へTMRを供給。

デントコーン、牧草の栽培・収穫（J Aコントラ）→貯蔵・保管・TMRの混合と梱包・配送（TMRセンター）といった管理体制。配合飼料はホクレンより購入。TMRは4種類（搾乳35kg用、搾乳40kg用、育成・乾乳前期、乾乳後期）で50～60t/日製造し、参加農家へ、7戸ずつ隔日で搬送。

現在の販売価格20円強/kgの他、3.30円/kgのTMRセンター利用料を負担。コントラクターへの委託料64,000円/haは、別途支払い。飼料設計は、農家指導と併せて地元の普及センターが指導。

TMRセンター稼働以前は、酪農家ごとに1頭当たり乳量のばらつきがあったが、高位平準化され、平均9,500kgに増加した。

TMRセンターでは、参加農家の関与や主体性を高めるため、運営協議会を設けており、施設機械部会（飼料作物管理、施設機械の管理・運営）、土地部会（栽培地の選定、草地更新など）、TMR部会（TMRメニュー、飼養管理技術研修）の3部会を置き、運営に当たっている。



センター全景



バンカーサイロ



自走式ミキサー車2台



バンカーサイロ17基



配合飼料タンク10基



運搬用フォークリフト1台



16年度生総事業で整備



圧縮梱包機2基



トランスバッグ①



トランスバッグ②